

阿寒湖

(あかんこ)

位置：北緯43度27分、東経144度06分／標高：420m／面積：1318ha／湿地のタイプ：淡水湖(カルデラ湖)／保護の制度：国立公園特別保護地区および特別地域／所在地：北海道釧路市／登録：2005年11月／国際登録基準：1

湿地のタイプ：淡水湖



マリモ



南から見た阿寒湖



朝日を浴びた阿寒湖と雄阿寒岳

湿地の概要：

日本は火山の国である。日本列島のあちこちに火山がある。日本を代表する富士山が火山であるように、火山は美しい景観を生む。日本の国立公園の3分の2は火山を含んでいる。

北海道の東部、釧路湿原からは北、瀧沸湖や網走湖からは南に位置する阿寒国立公園も、雌阿寒岳1499mと雄阿寒岳1370mの二つの活火山を盟主とする、日本を代表する国立公園である。1934年3月の瀬戸内海、雲仙、霧島につづいて、同年12月、大雪山、阿蘇などととも日本で2番目に指定された国立公園である。

阿寒湖は、雌阿寒岳と雄阿寒岳にはさまれた標高420mにある、周囲25.9km、面積約1300ヘクタールの淡水湖で、水深は平均18m、最大で45m。火山活動の陥没によってできたカルデラ湖である。阿寒湖を取り囲む山々は、エゾマツ、トドマツなどの針葉樹とミズナラ、シナノキなどの広葉樹が混在する針広混交林におおわれ、山頂部にはハイマツやガンコ

ウランなどの高山植物が生育している。

このように阿寒湖は、湖と森と火山のおりなす、日本を代表する山岳自然景観である。

守られてきた集水域：

阿寒湖周辺の山林3900ヘクタール、つまり集水域は、個人の所有地として1900年代初頭から森林経営がおこなわれてきた。その後、1983年に所有を受け継いだ人々によって自然保護財団が設立され、厳しく維持、管理されている。

こうした良好な環境のもとで阿寒湖と周辺の森林には、北海道を代表する大形哺乳類のヒグマやエゾシカをはじめ哺乳類24種、クマガラなど鳥類65種が生息している。

希少な水生生物：

阿寒湖にはヒメフラスコモ、カタシャジクモ、シャジクモ、そしてもっともよく知られているマリモなど、多くの希少な藻類が確認されている。

魚類でも、ここがアジアにおける天然分布の南限となっているヒメマスや、日

本最大の淡水魚のイトウ、貝類ではカワシンジュガイなどが生息している。

【マリモ】 淡水湖沼の底で、岩などに付着せずに、マット状の軟らかい塊になって生育する藻類。阿寒湖では世界に例を見ない球形になる。表面は緑のピロート状で、美しいボールになる。大きな球形になると中が中空になり、20cm以上になると球形はくずれ、糸状体になる。そして、長い時間をかけて再び球形にもどる。

●関係自治体

釧路市役所 Tel: 0154-23-5151

